

サロンでの気づき

サロンを訪問させて頂き、気づいたこと、聞いたことなど、お伝えしたいと思います。何かお役に立てれば嬉しいです。

暖かくなってきましたね。

会社の前のビオラ、マーガレットの花が元気に咲いています。



3月終わりの月曜日、ポカポカ陽気の中、平和公園の川辺にあるお気に入りのオープンカフェ『ポンテ』で桜を楽しみました。今年があつと言う間に散ってしまいましたね。



先日、得意先の先生が講師をされている一光流の展示会で3年ぶり2度目の生け花に挑戦しました。3年前は何をどうしてよいのか頭が真っ白になり、そのまま挿しただけでしたが、今回は、開き直って無心に作品をつくることができました。



自力で作った作品



家元の手直しいただいた作品



可愛い作品を買って帰りました。来年の春に飾ります。

NHKの朝ドラは『日本で本物のウイスキーをつくりたい』というマッサンとリタの冒険旅行(アドベンチャー)を描いた『マッサン』が終り、新しく『まれ』が始まりました。自分の夢=パティシエへの思いを取り戻し、世界一のケーキ職人を目指す物語だそうです。



NHK大河ドラマ『花燃ゆ』でも吉田松陰が『志を立てる事はすべての源です』『君は、何を志しますか?』と問

いかけます。夢、目標を持って生きていくことの大切さ、素晴らしさについて考えさせられます。

以前あるサロンの先生が、成長するには、明元素(明るく、元気で、素直)な人になること、それともう一つ『目標を持つこと』とおっしゃっていたことを思い出します。

さて、この時期はサロン様に新人スタッフさんが入って来られます。

あるサロンの新人スタッフさんがとてもハキハキと元気な声で対応されるので私が『元気ですね』と声をかけると『今、私にできることはこれしかありませんから』と笑顔でこたえられました。

このサロンのオーナーが「お客様から『新人さん、気持ちがいいね』と言っていただけなんですよ。サロンに良い風を入れてくれています。先輩に良い刺激を与えてくれています。」と言っておられました。

技術はなくても、今できることを一所懸命やっている姿に人の心は動くんですね。私も新人スタッフの皆さんから大きなエネルギーをいただいています。

先日、お気に入りの本屋さんから鈴木中人著『6さいのおよめさん』という絵本をすすめていただきました。著者は、長女の小児がん発病を機に小児がんの支援活動やいのちの授業に取り組み、会社を早期退社して、いのちのバトンタッチをテーマに、いのちの輝き、家族の絆、生きる幸せ・働く喜び、良き医療などを全国に発信しておられます。

.....

『6さいのおよめさん』作品紹介

この本は、19万人が感動の涙を流した、鈴木中人氏の『いのちの授業』を待望の絵本にしたものです。



『およめさんになりたい』『学校にいきたい』と、6さいまでのいのちを、精いっぱい輝かせた著者の長女ケイコちゃ

※裏面に続く

ん。天国で幸せなお嫁さんなっていると信じ、いのちの授業を語る家族。いのちの大切さ、家族の絆、生きる力を、きっと心感じる事ができる物語です。

物語の内容と著者の名前に見覚えがあったので本棚を探してみると以前に読んだ『人生のそのときに心に刻む10のこと～働く父から息子へのメッセージ』という鈴木さんが書かれた本がありました。パラパラと少し読み返してみました。10のテーマの中の一つ



『5.天職を求めるとき～天職は探すものではなく、天職にするもの』の中からご紹介させていただきます。

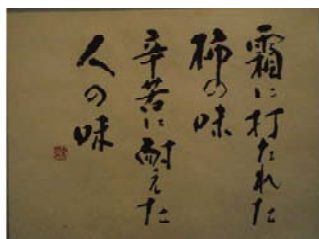
生き方がキャリアになる

～小児がんの家族会の代表を引き受けました。ある日、家族会で感じていることを上司に話すとうい言われました。いい味が出てきたねと。上司が続けます。『人間としての魅力がある、それが大切なんだ。あの人のために、あの人が言うことなら。そうみんなに思ってもらえたら本物。それは、知識やテクニックで身につくものではなく、その人の生き方が醸し出す人間味のようなものかなあ…。その味が出てきたら、君も本当の管理者になれるよ』。生き方が醸し出す人間味。その言葉は、ただ管理することばかりをしていた私の心にグサッときました。その上司は、私が会社を辞める挨拶に何うとうも言うてくれました。『そうか、辞めるか。これから体験する一つひとつのことが生き方となる。きっと君のキャリアになってくれるから』と。

今、私のキャリア(体験)をもとに、いろいろなお話をしています。そのキャリアは、決してあらかじめ意図してデザインしたものではありません。滑り転んだり、もがきながら生きる、働くことが積み重なり合って、今の私があるように思えるのです。

ある本で読んだ言葉が、ふと思ひ浮かびます。
霜に打たれた柿の味、辛苦に耐えた人の味。
私の味は、まだまだ青いばかりです。

～(ここまで抜粋記事)



もう一つ『月刊致知』5月号の中から経営者やアスリートの専属コーチをしている加藤秀視さんのインタビュー記事をご紹介します。



——どのような指導をされているのですか。

加藤—メンタル面の指導というと、よくプラス思考や心の持ち方を説く方が多いんですが、僕はもっと深いところにある人間の純粋な意識にアプローチする方法をとっています。僕は『純粋性』という言い方をしていますが、分かりやすい表現をすれば、自分自身と向きあって自分のすべてを受け入れることです。長所だけでなく短所も全部ひっくるめて『自分は唯一無二の価値ある存在だ』と心から思えることなんですね。

自分の価値に心から気づいてこそ、『自分にはどうせできない』とか『価値がない』といった様々な幻想、緊張、プレッシャー、恐怖心といった想念から解放され本当の使命や役割に気づくようになる。僕のベースの考え方のベースには常にそのことがあります。つまり、様々なノイズに巻き込まれて分からなくなっているももとの能力に気づかせあげるのが僕の役割だと思っているんです。

～(ここまで抜粋記事)

目標に向かって地道にコツコツ、自分を大切に精いっぱい生きて、味のある人間になっていきましょう。

先日の阪神戦で今季最速の152キロをマークしたカープの黒田投手も『いつ腕が飛んでもいいと思って投げている。思い切り振った』と語っていました。



チームは7連敗を喫しスタートダッシュから出遅れましたが、若手とベテランが切磋琢磨しながら巻き返してくれるものと信じています。

4月19日の日曜日、マツダスタジアムに応援に行ってきます。